

彼方「かなた」

校長通信
H26.1.27
Vol.35

【ゴールに向かって頑張る！】



一月十二日（日）絶好のマラソン日和、銚子の市内を七十数校の選手が白バイ先導に八区間の駅伝に挑みました。伝統のある銚子駅伝競走大会です。東葛管内の中学校もほとんどが参加をしていました。本校も十位入賞を目指して、

齋藤キャプテンを中心に一、二年生の駅伝強化選手と共に冬季練習に励み、挑みました。結果は二十位で、目標を果たすことができず、悔しい思いをしていましたが、次につながるレース内容でした。

二月二十三（木）は葛南新人駅伝大会でした。新チームの各種大会の最後を飾る大会でした。柏の葉公園内を会場に、我孫子市六校、鎌ヶ谷市五校、合計十一校が県大会出場を目指して激走しました。結果は、男子が、白山中に次いで準優勝、女子は七位となりましたが、男女ともに二月十五日（土）



の県新人駅伝競走大会への参加を決めました。そして、昨日一月二十六日（日）我孫子市新春マラソン大会が行われました。箱根駅伝を走った中央学院大学の学生さんに引張られながら小学生から一般の市民ランナーまで

二千人余りの選手が湖北台中学校周辺コースを気持ちよく駆け抜けました。オフシーズンを利用して十一月から続けてきた冬季練習の納会の意味もあり、新春マラソン大会当日は、駅伝部や陸上部だけでなく野球部、サッカー部、剣道部、卓球部といった他の部活動も積極的に参加し、最後まで完走めざして頑張りました。

どのレースも冬晴れの絶好のコンディションの中で行われました。いつも多くの保護者のみなさんや部活動後援会のみなさん、PTAのみなさんに応援していただいています。選手共々心から感謝です。

本当に素敵な学校です。ところで、駅伝やマラソンの応援をしているといつも思い出す言葉があります。それは、「春に大きな花を咲かせるには、冬の厳しい寒さの中でしっかりと蕾を膨らませなければ



ならない。「大きくジャンプするにはしっかりと沈み込まなければならぬ」という言葉です。この二つの言葉は、



全国大会常連チームの顧問の先生が、選手にミーティングで話していたことです。「つらい練習も必死に頑張る。簡単なことでも丁寧にこなす。見られていなくても、言われなくても自分から動く。誰にでも進んで挨拶をする。使った場所、使った物を綺麗にする。これが、蕾を膨らませ、しっかりと沈み込むことなのです。何の我慢もなく、その場限りの感情で楽な道を選ぶ人間に、大きな花は咲かせられないし、大きなジャンプも期待できないのです。」

この言葉は、スポーツの世界だけでなく、人の生き方そのものについて語っているような気がします。人生も山があったり谷があったりしますが、大変なときこそ自分を伸ばすチャンスであり、蕾を膨らませるための大切な時期と考えて、駅伝選手やマラソン選手のように前向きにゴールを目指したいものです。各大会に参加した選手に大きな拍手を！

